

第45回

栃木県文化振興大会

— 地域文化の振興を目指して —



(日本最古の学校・日本遺産・国指定史跡足利学校)

と き 令和4年1月27日(木)
ところ 足利市民プラザ

主 催 栃木県文化協会 栃木県 (公財)とちぎ未来づくり財団
足利市教育委員会 佐野市 安足ブロック文化協会

後 援 栃木県市長会 栃木県町村会 栃木県社会教育委員協議会
栃木県公民館連絡協議会 足利市 佐野市教育委員会
(公財)足利市みどりと文化・スポーツ財団 下野新聞社
とちぎテレビ 栃木放送 エフエム栃木 NHK宇都宮放送局

大会趣旨

社会の変化と時代の進展に伴い、県民の文化への志向がますます高まる中、文化活動に携わる関係者が一堂に会して、文化の交流を図り地域文化の振興に資する。

＊ ＊ 伝統文化を学び継承する街 あしかが ＊ ＊

『日本最古の学校』足利学校は、室町時代、上杉憲実^{のりざね}によって再興され全国から学徒が集い、16世紀にはイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルによって「日本国中最も大にして最も有名なる坂東の大学」とヨーロッパに紹介されました。学びの中心は「四書五経」等儒学で、その時代に求められた最高の学問を自ら学ぶ「自学自習」の「学校」でした。

足利市では次代を担う子供たちに対して、文化協会と伝統文化、生活文化及び国民娯楽の指導者等が一体となって、地域ぐるみで民俗芸能、工芸、邦楽、日本舞踊、茶道、華道、食文化、囲碁、将棋などの伝統文化等を自ら学び体験・習得できる機会を設け子供たちの体験機会を拡充しています。併せて地域文化・地域人材の掘り起こしを目的とした「学び」を核にした文化庁の補助事業に取り組んでいます。

令和4年度には、日本最古の学校・日本遺産 史跡足利学校を舞台に、伝統文化を自ら学ぶ機会として、文化協会会員が指導者となる新たな継承事業を進めます。

文化庁は平成27年4月、史跡足利学校を含む「近世日本の教育遺産群一学ぶ心・礼節の本源一」を日本遺産に認定しました。

表紙写真は江戸時代中期の姿を忠実に復原した現代の史跡足利学校です。

大 会 日 程

◎ 記念式典 13:00～13:30

- (1) 開式のことば
- (2) 主催者あいさつ
- (3) 文化選奨表彰式
- (4) 来賓祝辞
- (5) 受賞者謝辞
- (6) 閉式のことば

◎ アトラクション 13:45～15:00

- (1) 箏 曲 足利市立富田中学校音楽部
- (2) 和太鼓 和太鼓集団 黎明座
- (3) 八木節 足利市八木節連合会

◎ 閉 会 15:00

《特別企画》

会場 足利市立美術館（足利市通 2-14-7）

会期 令和 4 年 1 月 15 日（土）～ 1 月 30 日（日） 月曜日休館

10:00～18:00 （入館は 17:30 まで）

◎ 特別展示（文化選奨受賞者の作品展示）

令和 2 年度受賞者

杉山 寒月 氏（日本画）

関口 聖子 氏（洋画）

令和 3 年度受賞者

赤澤 豊 氏（書道）

◎ 作品展等

足利市民文化祭優秀作品展

足利文化協会会員作品展

令和3年度 文化選奨受賞者

わたなべ りきえい
渡邊 力榮 氏 (演劇)

89歳 茂木町在住

氏の演劇活動は、学校演劇と社会人演劇の二分野に区分される。

まず、学校演劇（指導者としての活動）でみると、氏は昭和34年大学を卒業後、茂木町立烏生田小学校に奉職し、その秋には県演劇祭に出場し入選。これが氏の学校演劇の出発点になった。

更に2年後、町立鮎田小学校に転勤するや、その秋の県演劇祭で小学校部門最高位の特選カップ賞を受賞した。この年の芳賀郡演劇祭の参加は鮎田小と真岡高校の2校だけであり、郡演劇祭の存続が危ぶまれる状況にあったが、鮎田小学校の快挙は茂木町内はじめ郡内に大きな影響を与え、翌年からの参加本数の増加に繋がった。

氏はその翌々年、母校である茂木高校に転出し、かつて自分が第一号の部員であった演劇部の指導者となり、退職までの29年間その任を果たした。氏の在任中の同校演劇部は、各地区予選通過校が出場する県大会に23回出場し、上位入賞の常連校の一角を占めていた。関東大会には2回出場を果たしている。

また、この間、昭和41年に県高文連演劇部会の前身である栃木県高等学校演劇研究会が設立され、芳賀地区代表の委員として全県下の演劇部の統一に尽力した。

このような学校演劇活動を支えた精神的バックボーンとして氏は「学校における演劇は教育の一端。入賞は目的にしていない。結果よりも過程の方が子どもたちにとってより重要だ。」と語られている。

次に社会人演劇活動についてみれば、昭和29年、町の青年団活動の一つとして「茂木青年学級演劇サークル」が誕生し当初メンバーとして参加した。その後、昭和42年、氏の発案により影絵劇を始めたことをきっかけに、サークルは「星のひろば」と名を変え、現在に至るまで67年間、県内で最も活動歴の長い劇団として児童演劇や朗読劇、影絵人形劇などの活動を続け、多くの人々に親しまれてきた。また、平成26年以降は舞台芸術を目的に結成された「汽笛の響く街プロジェクト」とともに「もてぎde演劇を創る会」として、ミュージカルの公演活動を続けている。

「星のひろば」の活動は町の文化活動にも刺激を与えており、令和元年度には茂木町文化協会会長としての活動が認められ、文化振興の分野で栃木県各種功労者表彰を受賞された。

栃木県文化協会では現在、芸術祭ホール部門の運営委員長を務めるとともに、理事、常任理事を歴任し、本県芸術文化全体の振興・発展にも力を注いでいる。

中学時代から現在まで、一年もかかさず演劇をやり通し、数々の功績を挙げられた氏の生涯は見事であり、文化選奨に相応しい人物である。

令和3年度 文化選奨受賞者

あかさわ ゆたか
赤澤 豊 氏 (書道)

73歳 宇都宮市在住

氏は昭和23年日光市生まれ。昭和44年21歳の時から七海水明氏に師事、本格的に書の研鑽が始まる。師には中央書壇での活動を勧められたが、氏は敢えて県内の書道団体で積極的に活動し、独自の書風を高めると共に栃木の書文化の振興と普及にその情熱を注いでいる。温厚・誠実で周囲からの信頼も厚く、後進の指導育成にも尽力し、大きな成果を上げている。

栃木県書道連盟では、平成元年に事務局長に就任し、会員の増強や若手育成などに取り組むと共に、平成24年には異例の若さで会長に就任し、2期4年間、栃木の書道の普及、発展に尽力した。平成4年、中国浙江省西 印社を招聘し栃木にて友好交流会を開催、これにより栃木県書道連盟と浙江省との書の交流の懸け橋を築き、以来幾度となく友好交流や書展が栃木と中国で開催された。書道連盟創立の記念すべき節目の行事にも尽力し連盟の存在を高めており、次の会長に引き継ぐ時には「70年を振り返る」と題した講演を行い、豊道春海を始めその時々活躍された先人達をパワーポイントで甦らせた。

栃木県芸術祭美術展では、昭和61年と63年に芸術祭賞を受賞、運営委員や審査員などを数多く務め、県芸術祭の運営発展と厳正かつ公正な審査に尽力してきた。門人の出品点数や入選点数も県下一であり、この業績は広く認められている。

宇都宮市民芸術祭では、昭和59年に芸術祭賞を受賞、以降、審査員、運営委員を幾度となく務め、芸術祭の運営発展に尽力している。平成9年の宇都宮美術館主催の第1回宇都宮美術の現在展に出品、以降第4回展まで全てに出品している。

下野新聞社関連書展では、今年で第46回となる「下野の書展」に毎年出品、昭和56年に下野書展賞、昭和60年に第10回下野書展記念賞を受賞し、昭和61年に下野の書展代表作家となる。平成8年に設立された「栃木の書壇50人展」にも毎年出品している。また、下野書道会では平成26年に副理事長、平成29年に理事長に就任し同会の発展に尽力している。

宇都宮市文化協会では、平成25年に副会長兼事務局長、令和元年に会長に就任し、協会の文化芸術に関する幅広い事業運営に積極的に取り組み、未来を担う子ども達への情操教育の一環として、市内小中特別支援学校を対象に文化芸術教育を行う「ふれあい文化教室」の全校参加を実現させると共に、団体企業向けに講師を派遣する「ふれあい文化教養講座」も開設し、社会に大きく貢献している。

氏の社中である「朴豊会（ぼくほうかい）」は、平成7年に結成されて以来、数多くの書道愛好者を育成、毎年「朴豊会書展」を開催し25回を重ねている。この会は県内最大の会員数を有し、書展は超大作の親子合作や書展を盛り上げる企画力にも特徴があり、多くの来場者を魅了している。また、氏は親子展や兄弟展を幾度か開催している。

以上が氏の文化芸術活動の実績であり功績である。特に人の輪を大切にし、人の為に尽くし、未来を創造する姿勢が旺盛であり、その信頼度は高く、栃木県書道界はもとより幅広い文化の振興を牽引した功績は高い評価に値するものである。

文化選奨受賞者一覧

年齢・住所：受賞時現在

年 度	氏 名	年 齢	住 所	部 門
平成 5	大 平 義 敬	93	西 那 須 野 町	創 作
	七 海 水 明	79	宇 都 宮 市	書 道
6	石 川 満 都子	78	宇 都 宮 市	バ レ エ
	鈴 木 正 一郎	78	宇 都 宮 市	写 真
7	富 祐 次	77	宇 都 宮 市	文 化 財 保 護
	若 柳 吉 紫之	85	宇 都 宮 市	日 本 舞 踊
8	鈴 木 道 子	70	宇 都 宮 市	邦 楽（箏 曲）
9	小 林 宏	72	宇 都 宮 市	創 作
10	市 川 竹 穂	69	足 利 市	竹 工 芸
	落 合 雄 三	70	宇 都 宮 市	文 芸
11	荒 井 宗 明	75	宇 都 宮 市	川 柳
12	西 川 扇 士穂	69	宇 都 宮 市	日 本 舞 踊
13	森 絹 枝	74	宇 都 宮 市	随 筆
14	佐 藤 榮 作	74	宇 都 宮 市	民 謡
	外 池 美 都子	87	宇 都 宮 市	短 歌
	高 山 玉 瑤	85	石 橋 町	華 道
15	小 林 猛 雄	74	宇 都 宮 市	洋 画・現 代 詩
16	重 原 聖 鳥	71	市 貝 町	書 道
	橋 本 美 代子	78	鹿 沼 市	民 謡・民 舞
17	鈴 木 凱 山	71	宇 都 宮 市	吟 詠 剣 詩 舞
18	西 村 的 山	70	宇 都 宮 市	邦 楽（尺 八）
19	太 田 章	83	佐 野 市	写 真
20	該 当 者 な し			
21	鈴 木 源 泉	73	高 根 沢 町	書 道
22	五 月 女 政 平	89	小 山 市	洋 画
23	金 子 堅 太 郎	84	宇 都 宮 市	演 劇
24	高 橋 昭 行	82	宇 都 宮 市	詩
25	新 井 達 夫	81	小 山 市	洋 画
26	該 当 者 な し			
27	荻 野 治 子	80	宇 都 宮 市	音 楽
28	小 荷 田 忠 幸	87	宇 都 宮 市	洋 画
	中 野 永 峰	84	宇 都 宮 市	書 道
29	中 田 亮	87	宇 都 宮 市	俳 句
30	久 津 美 碧 洋	89	宇 都 宮 市	書 道

年 度	氏 名	年 齢	住 所	部 門
令和元	大 手 義 雄	85	宇 都 宮 市	写 真
2	杉 山 寒 月	77	宇 都 宮 市	日 本 画
	関 口 聖 子	79	那 須 塩 原 市	洋 画
3	渡 邊 力 榮	89	茂 木 町	演 劇
	赤 澤 豊	73	宇 都 宮 市	書 道

文化奨励賞受賞者一覧

年齢・住所：受賞時現在

年 度	氏 名	年 齢	住 所	部 門
昭和 50	高 内 壮 介	55	鹿 沼 市	文 芸
	坂 本 好 一	43	宇 都 宮 市	版 画
	松 本 哲 男	32	宇 都 宮 市	日 本 画
51	該 当 者 な し			
52	西 川 扇 祥	51	宇 都 宮 市	日 本 舞 踊
	坂 本 勉	51	宇 都 宮 市	邦 楽
53	御子貝 保 子	45	宇 都 宮 市	音 楽
	立 松 和 平	31	宇 都 宮 市	作 家
54	関 雅 之	48	宇 都 宮 市	洋 画
	増 渕 任 一	35	東 京 都	邦 楽
55	秋 元 満 正	55	宇 都 宮 市	写 真
	小 林 猛 雄	50	宇 都 宮 市	洋 画
	杉 山 吉 伸	43	氏 家 町	洋 画
56	丑久保 健 一	34	宇 都 宮 市	彫 塑
	粕 谷 圭 司	35	宇 都 宮 市	彫 塑
57	岩 村 和 朗	43	益 子 町	絵 本 作 家
	曾 我 芳 子	61	鹿 沼 市	洋 画
58	該 当 者 な し			
59	荒 井 孝	46	宇 都 宮 市	日 本 画
	石 島 あづさ	26	小 山 市	作 家
	名 倉 省 三	48	宇 都 宮 市	音 楽
60	佐 藤 孝 子	41	小 川 町	短 歌
	平 川 晋 吾	50	宇 都 宮 市	工 芸
	宮 坂 健	36	鹿 沼 市	洋 画
61	日 原 公 大	41	大 田 原 市	彫 塑
	松 本 富 生	49	西 那 須 野 町	作 家
62	荻 野 久 一	54	宇 都 宮 市	音 楽
	田 村 了 一	41	佐 野 市	彫 塑
	藤 沼 昇	42	大 田 原 市	工 芸
63	佐 伯 守 美	39	芳 賀 町	陶 芸
	高 内 秀 剛	51	益 子 町	陶 芸
	長 倉 翠 子	51	益 子 町	陶 芸
平成元	妻 木 律 子	33	宇 都 宮 市	現 代 舞 踊
	北 條 正 庸	41	宇 都 宮 市	日 本 画

年 度	氏 名	年 齢	住 所	部 門
平成 2	鈴 木 光 爾	48	小 山 市	工 芸
3	崎 谷 昭	37	那 須 町	洋 画
	正 田 忠 雄	44	佐 野 市	工 芸
	濱 田 能 生	47	鹿 沼 市	工 芸
4	岡 田 貢 峰	43	宇 都 宮 市	民 謡
	田 中 定 一	43	上 三 川 町	洋 画
	羽 太 雄 平	48	今 市 市	創 作
5	小久保 裕	44	小 山 市	洋 画
	永 山 彦 三 郎	33	鹿 沼 市	小 説
	宮 原 隆 岳	46	宇 都 宮 市	漆 芸
6	古 郷 秀 一	42	益 子 町	彫 塑
7	大 浦 舟 人	41	南 河 内 町	篆 刻
	鈴 木 量	50	益 子 町	工 芸
8	江 田 蕙	38	佐 野 市	工 芸（ 鑄 金 ）
	高 橋 靖 史	34	宇 都 宮 市	彫 塑（ 造 形 ）
9	青 木 世 一	43	野 木 町	彫 刻
	桜 井 敬 朔	51	河 内 町	書 道
	林 香 君	44	芳 賀 町	陶 芸
10	明 石 庄 作	52	益 子 町	陶 芸
	大 谷 喜 男	48	高 根 沢 町	洋 画
11	山 田 栄 二	51	宇 都 宮 市	音 楽（ 作 曲 ）
	田 代 甚 一 郎	55	宇 都 宮 市	洋 画
	小 川 博 久	51	茂 木 町	陶 芸
12	加 藤 慎 平	44	矢 板 市	工 芸（ 日 本 刀 ）
13	梅 澤 希 人	42	上 河 内 町	洋 画
	谷 口 勇 三	51	宇 都 宮 市	陶 芸
14	赤 澤 豊	54	宇 都 宮 市	書 道
	和 久 文 子	51	今 市 市	邦 楽（ 箏 曲 ）
15	土 居 恭 司	54	宇 都 宮 市	陶 芸
	古 田 佳 子	35	日 光 市	民 謡
16	小 関 修 一	46	小 山 市	洋 画
	渡 邊 洋 子	32	宇 都 宮 市	能 楽
17	水 樹 涼 子	44	国 分 寺 町	創 作
18	広 沢 隆 則	39	二 宮 町	鑄 金
19	日 賀 野 琢	43	宇 都 宮 市	書 道
20	西 川 東 扇	57	宇 都 宮 市	日 本 舞 踊
21	磯 飛 節 子	45	大 田 原 市	竹 工 芸

年 度	氏 名	年 齢	住 所	部 門
平成				
22	土 澤 美 岳	43	佐 野 市	吟 詠 剣 詩 舞
23	菊 地 武 彦	51	足 利 市	洋 画
24	赤 澤 寧 生	38	宇 都 宮 市	書 道
25	該 当 者 な し			
26	田 中 茂	55	鹿 沼 市	彫 刻
27	塚 原 秀 巖	54	鹿 沼 市	書 道
28	該 当 者 な し			
29	白 石 一 徳	48	矢 板 市	洋 画
30	該 当 者 な し			
令和元	株 田 昌 彦	43	市 貝 町	洋 画
2	福 田 智久山	38	日 光 市	邦 楽（尺八）
3	該 当 者 な し			

アトラクション

(1)「箏 曲」 足利市立富田中学校音楽部

私達の学校は全生徒 94 名、足利市内で一番小さな学校です。

学区には、「大藤」や「イルミネーション」で有名な「あしかがフラワーパーク」があり自然豊かな環境の中で毎日練習に励んでいます。また、地域を始め足利市内外の各地で演奏を披露しています。

本日演奏する曲は「花筏」と「樹冠」です。

「樹冠」は第 49 回栃木県学校音楽祭中央祭合奏の部で金賞を受賞した曲です。

皆様の心に響くよう、共に練習に励んできた仲間を信じて私達のできる精一杯の演奏をお届けします。

◆ 出演者

富田中学校音楽部

本間 詩乃	永瀬 心寧	伊藤 眞	今井理紗子	野村かのん
指導者 教員 永島 裕子	外部指導員 山岡美奈子			

◆ 演 目

- | | | | |
|---|---------|----------|-------------|
| ① | はな
花 | いかだ
筏 | 作曲 沢井 忠夫 |
| | 一 箏 | 本間 詩乃 | 二 箏 永瀬 心寧 |
| ② | じゅ
樹 | かん
冠 | 作曲 長谷川 勝利 |
| | 一 箏 | 伊藤 眞 | |
| | 二 箏 | 今井理紗子 | 永瀬 心寧 本間 詩乃 |
| | 十七弦 | 野村かのん | |



アトラクション

(2) 「和太鼓」 和太鼓集団 黎明座

設立 11 年、座員 40 名、高校生から未就学生と次世代を担う子供たちを中心に指導活動している和太鼓集団。

令和 3 年度は文化庁の補助事業である伝統文化親子教室の指導も手掛け仁・義・礼・智を念頭に、精いっぱいの演奏を披露し好評を得ています。

現在コロナ禍ですが、市内や他県から様々な出演の依頼があり日々指導に熱が入り集団として鍛錬しています。

日頃は子供達中心の演奏会が多いのですが、本日は黎明座メンバーである子供達の保護者と太鼓仲間の合同による文化振興大会特別バージョン・足利和太鼓集団の演奏をお聴きください。

◆ 出演者

川久保研二	新井 朝美	石原 妙子	八木橋千絵
田部井桜美	前野 央江	青柳 康子	金森 仁江
前田 拓也	田中 悠花		
指導者	川久保 研二		

◆ 演 目

① 出囃子

和太鼓の迫力を景気良く爽快に表現した曲です。

② カラリコ oioi

足利市は織物の町で有名でした。機織の音「カラリコ」に因んで創作した曲です。



アトラクション

(3) 「八木節」 足利市八木節連合会

昭和 54 年足利市内 19 団体が集まり設立した歴史ある足利八木節連合会。現在は足利八木節を継承する 18 団体・300 名を有する団体です。

昭和 55 年栃の葉国体開催時には足利の八木節団体が一つになり披露し八木節発祥の地として全国に発信しました。主な次世代育成活動は、市民に広く募集する八木節教室や市民文化祭時の研修発表会、こども八木節発表会等の後継者育成事業や足利の観光 PR 事業等にも積極的に出演し、技能向上、親睦等、多様な活動を続け世界に八木節の魅力を発信しています。

近年の大きなイベントは 2019 年 2 月 NHK ホールで公演を行いました。以下公演の抜粋（連合会選抜チーム）を記述いたします。

- *2017 年 7 月 愛知県豊田市能楽堂公演
- *2017 年 7 月 自民党本部前庭ふるさと物産展での公演
- *2018 年 8 月 足利フラワーパーク駅開業記念公演
- *2018 年 12 月 柏崎市第 61 回関東ブロック民俗芸能大会
- *2019 年 2 月 NHK ホール出演 第 19 回地域伝統芸能大会

本日は先人達が築き上げた八木節を継承するメンバーによる足利八木節を披露いたします。

◆ 出演者

囃子 田中 久夫 大川 博一 小島 昌夫 柳田 良一 江崎ひろみ
渡邊 一利 櫻井 淳一 石井 幸作 酒井 雄司 上田 美穂
岩井田鳩子 長谷川智子 菅家 千尋
踊り 松島千恵子 椎名 節子 和賀井エイ子 栗原 政子 茂木 幸江

◆ 演 目

栃木観光八木節 八木節由来



公益財団法人とちぎ未来づくり財団 主催事業のご案内

【お問合せ】(公財)とちぎ未来づくり財団 文化振興課 Tell:028-643-1010(平日8:30~17:15)

【いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会文化プログラム事業】

古典芸能三人会～栃木県文化功労者の舞台～

古典芸能の継承と発展を未来につなぐ、栃木県文化功労者による至極の舞台をお楽しみください。

栃木県総合文化センター(県庁前)メインホールにて開催！



安久都和夫
能楽(謡曲)
平成21年度受章



鈴木凱山
吟詠剣詩舞
平成25年度受章



和久文子
邦楽(箏曲)
平成29年度受章

4月30日(土)
14:00開演

【第一部】
芸の継承(門下生の舞台)

【第二部】
文化功労者の芸(文化功労者の舞台)



後援: 栃木県/栃木県文化協会

全席自由 一般 2,000円(学生 1,000円) ◇2月18日(金)10:00 発売開始

栃木県総合文化センタープレイガイド 【電話予約】028-643-1013(発売初日は14:00~)
【ネット予約】<https://www.sobun-tochigi.jp>(24H)

栃木県文化協会の会員募集

当協会では、芸術文化の振興を目的とした事業の円滑な運営を図るため、会員(個人、団体、賛助)を募集しています。

会員の皆様には年2回の会報発行の他、各種事業の御案内、会員が行う有意義な文化活動への後援などを行っています。入会希望の方は、栃木県文化協会事務局までご連絡ください。

☆年会費 個人会員:3,000円 団体・賛助会員:20,000円
☆会報 とちぎ文化(年2回発行)
☆主な事業 栃木県芸術祭(文芸・美術・ホール・茶華道)
栃木県文化振興大会、講演会等
顕彰事業(文化選奨、文化奨励賞) 他

* 栃木県文化協会 *

〒320-8530 宇都宮市本町1-8

栃木県総合文化センター内

電話 028-643-5288

<http://www.tochibunkyo.jp>

栃木県文化協会会員（文化団体・賛助会員）

〈 文化 団 体 〉

栃木県謡曲連盟 (公社)日本舞踊協会栃木県支部	栃木県合唱連盟 窓日短歌会	栃木県煎茶道連盟 青竹の会
栃木県書道連盟	栃木県歌人クラブ	栃木県彫刻造形協会
栃木県三曲協会 (一社)茶道裏千家淡交会栃木県支部	茶道宗門	くろいそオペラをつくる会
栃木県民謡民舞和楽器団体連絡協議会	池坊宝生流	栃木県美術家協会
栃木県洋舞連盟	(公財)日本民謡協会栃木県連合委員会	全日本写真連盟栃木県本部
栃木県演劇協議会	全日本書写書道教育連合会	栃木県新作家集団
栃木県吟剣詩舞道総連盟	栃木県茶華道協会	Baby Star Entertainment
栃木県オペラ協会	栃木市茶華道協会	茶道裏千家柴宗生洗心会
書典会	光風会栃木	栃木二紀
臥龍会	NPO法人くるみの会音楽振興会	ヴェルデ会
栃木県交響楽団	鹿沼ポコ・ア・ポコ合唱団	書泉会
栃木県工芸会	喜多流緑扇会	
	白日会栃木支部	

〈 賛 助 会 員 〉

足利小山信用金庫	医療法人菅又病院	税理士法人ITS
滝沢ハム株式会社	社会福祉法人薫陶会	大和ハウス工業株式会社宇都宮支社
栃木日産自動車販売株式会社	村田発條株式会社	宇都宮東武ホテルグランデ
株式会社栃木銀行	中村技研株式会社	あすか中央税理士法人
日光山輪王寺	株式会社大高商事	田村浩税理士事務所
日光二荒山神社	学校法人宇都宮学園文星芸術大学	株式会社シンワルブテック
日光東照宮	株式会社増淵組	株式会社常陽銀行
株式会社下野新聞社	株式会社ユーユーワールド	戸崎会計事務所
有限会社白木屋本店	医療法人社団大衛会比企病院	フタバ食品株式会社
株式会社松井ピ・テ・オ・印刷	トヨタウツドユーホーム株式会社	栃木トヨタ自動車株式会社
株式会社栃木放送	株式会社仕関	株式会社日本栄養給食協会
レオン自動機株式会社	環境整備株式会社	AIS総合設計株式会社
公益財団法人とちぎ未来づくり財団	株式会社渡辺有規建築企画事務所	渡辺建設株式会社
有限会社高橋平版社	株式会社カンセキ	東京石灰工業株式会社
株式会社オオミヤ	学校法人須賀学園	株式会社関電工栃木支社
伴印刷株式会社	株式会社ハヤブサドットコム	KILALA美術学院
書遊松島堂	株式会社ホテルニューイタヤ	株式会社フェドラ
有限会社宇台額縁専門製作所	株式会社フケタ設計	株式会社オータニ
株式会社井上総合印刷	東亜警備保障株式会社	株式会社栃木サッカークラブ
株式会社関東整備	学校法人作新学院	北関東ニチュ株式会社
株式会社エフエム栃木	栃木県県民文化課文化振興担当	光陽エンジニアリング株式会社
株式会社とちぎテレビ	株式会社TKC	株式会社板橋組
社会福祉法人とちぎ健康福祉協会	長谷川工機株式会社	小林酒造株式会社
足利不動産株式会社	株式会社東武宇都宮百貨店	トヨタカローラ栃木株式会社
北関東総合警備保障株式会社	株式会社ネットコア	医療法人ヒボクラテス 竹村内科腎クリニック
株式会社とちぎんリーシング	晃南印刷株式会社	有限会社菊地時計店
株式会社とちぎんカード・サービス	株式会社須山液化ガス	上陽工業株式会社
宇都宮メディア・アーツ専門学校	株式会社アクセスホーム	株式会社八下田陸運
株式会社興建	TKC保安サービス株式会社	和田工業株式会社
株式会社足利銀行	税理士田島隆雄事務所	八汐電気株式会社
公益社団法人栃木県不動産鑑定士協会	秋元稔税理士事務所	中村土建株式会社

栃木県文化協会では、栃木県芸術祭などの事業実施にあたり、会員の皆様の御支援、御協力をいただいております。